

—いわき市—

これまでの業務で得られた経験

1. はじめに

私は平成23年度に福島県いわき市役所に入庁して、今年で11年目を迎えた。平成23年度から平成29年度までの7年間は水道局に配属され、平成30年度から現在までは道路管理課に所属している。

本文では、これまでの業務に携わり経験したこと、さらには今後の抱負について述べていきたい。

2. これまでの業務

1) 水道局での業務

水道局での業務は、主に老朽管更新事業の工事発注、工事監督及び漏水修理などの維持管理業務を担当していた。老朽管更新事業は、老朽化した水道管を取り替えることで、腐食などによる破損、濁り水の発生及び大規模地震時における漏水を未然に防止する効果がある。老朽管更新工事の設計では、直営にて作業することが多いため、現地測量、設計図の作成を一から行った。また、漏水修理については、漏水の通報を受けると、まずは現場の漏水状況の確認をし、2次災害を防止するため、必要に応じて交通規制を行う。次に修理を業者に依頼し、修理材料の手配が必要となる。また、断水しないと修理できない状況もあるため、断水の計画、広報及び給水車による応急給水の判断が必要となる。

このような現場での作業が多い業務から、現場をよく把握することの大切さや状況判断力を養うことができた。

2) 道路管理課での業務

道路管理課での業務は、主に道路の重要構造物(橋梁、トンネル、横断歩道橋、大型カルバート、門型標識など)の長寿命化事業を担当している。道路の重要構造物については、平成26年に道路法施行規則が一部改正されたことにより、5年に1度の近接目視点検が義務化され、平成30年度に1巡目の点検が完了した。この点検結果を基に、重要構造物について予防保全的な修繕などを行い、長寿命化と中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮

減や平準化を図ることで、将来にわたる道路交通ネットワークの安全性と信頼性を確保することを目的として、令和2年度に「いわき市道路構造物長寿命化修繕計画」を策定した。

これまでの現場経験にはなかった、新しい計画を策定するまでの一連の流れを経験することができた。



いわき市道路構造物長寿命化修繕計画策定委員会の様子

3. おわりに

これまでの業務にて、インフラ施設の維持管理の重要性を認識した。今後、高度経済成長期に建設された多くのインフラが、老朽化による損傷が原因で重大な事故に繋がることが懸念される。また、人口減少や少子高齢化に伴い財政状況が厳しくなる状況であるため、維持管理予算の縮減が求められる。このような状況の中、インフラ施設を適切に維持管理していくことが課題となるため、これまでの経験を活かしながら、さらに経験を積んで課題解決に向け業務を行っていきたい。



同委員会の様子(執筆者は一番右)

いわき市 土木部 道路管理課 技査 松本 昌宏